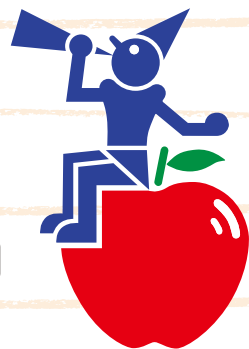


議会 だより



令和8年 10月29日

いいだ市議会だより

IIDACITY-gikaidayori

No.248

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534

飯田市議会タウンミーティング



～次の時代を担う若者の声を聴く～

第3回定例会 2P
委員会 3～7P
ズバリ市政を問う(委員会代表・一般質問) 8～11P
議員紹介ほか 12P

令和8年

第3回 定例会

9月2日
～
9月29日
開催

定例会のあらまし

第3回定例会は令和7年度飯田市の各会計の決算認定や市民に直接関係する水道料金の改定に関する条例の一部改正などの議案が上程されました。

開会日に、「専決処分の承認を求めることについて(令和8年度飯田市一般会計補正予算(第2号))」等報告案件6件、「教育委員会の委員の任命について」など人事案件3件、「飯田市認可地縁団体の印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について」など条例案件8件、「大鹿村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて」など一般案件5件、「令和8年度飯田市一般会計補正予算(第3号)案」などの予算案件5件、「令和7年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について」など決算認定13件の議案の上程がありました。

これらの議案は説明を受けたのち、専決処分の承認を求める報告案件と人事案件については開会日に承認及び同意をしました。そのほかの議案は所管の委員会に付託され審査を行い、閉会日にいずれも原案のとおり可決しました。

また、閉会日には9月8日及び9日の大雨による災害復旧のため「令和8年度飯田市一般会計補正予算(第4号)案」が上程され原案のとおり可決しました。

議案第93号「飯田市水道条例の一部を改正する条例の制定について」の産業建設委員長の報告に対し反対・賛成それぞれの立場から討論があったため、起立採決となりました。

【反対討論】安定した水道水供給のため施設の更新や耐震化の必要は承知している。しかし、市民は3年前18%の改定を受け入れた。市民生活や地域経済への影響などを含め十分な説明や検証がされたとは言えないため反対。

【賛成討論】物価高騰が続く、市民の日常生活が圧迫されているが、会議の質疑で激変緩和措置の取組に対する市長答弁は前向きであった。市民生活を守るために安心安全でおいしい水を供給することが重要であるし、料金改定を先送りした場合、将来世代に対して過大な負担となり世代間の公平性に欠けることから賛成。

議案に対する質疑と審査

委員会での質疑等の内容は、次ページからの常任委員会のページで、その一部を紹介いたします。

請願・陳情

今定例会では新規の請願1件及び陳情2件の審査を行いました。審査状況は付託を受けた常任委員会のページでご確認ください。

【請願第2号】採択

政府・関係省庁に対し、「地方財政の充実・強化を求める意見書」を提出を願いたい。(総務委員会)

【陳情第6号】不採択

令和8年6月に示された水道料金の値上げに関し、慎重に審議し、必要に応じて計画の見直しを行うよう市当局に働きかけることを求

める。(産業建設委員会)

【陳情第7号】不採択

令和9年4月から飯田市が水道料金の値上げを実施しないこと及び長野県と国に対し水道事業に関する大幅な補助金の要望を行うことを求める。(産業建設委員会)

議員及び委員会提出議案

【発委第2号】飯田市水道条例の一部を改正する条例案に対する附帯決議について

【発委第3号】水道事業の老朽化対策及び耐震化並びに経営基盤強化に向けた支援を求める意見書の提出について(国及び関係行政庁に対し)

議案第93号に関連し産業建設委員会から議案が提出され可決しました。

発委第2号 次の事項に十分配慮されたい。

▼条例施行にあたり、激変緩和策の検討、料金改定の周知は新たな視点で取り組むこと▼今後の水道事業経営について、省力化及び効率化に向けた広域連携の在り方などの研究を図りたい。

発委第3号 ▼水道施設の老朽化対策・耐震化に対する予算の確保▼専門的業務を担う技術

職員の確保及び技術継承・人材育成の支援▼広域連携に向けた取組への支援と補助対象の拡充

【発委第4号】地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について

請願第2号の採択を受け総務委員会の発議により、国及び関係行政庁に対する意見書について委員会案が提出され、可決しました。

総務委員会

9月2・14・15日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

総務委員会へ付託となった議案5件について、慎重に審査を行った結果、いずれも原案のとおり可決することに決定しました。

ここでは、予算決算委員会総務分科会分担分の議案審査の中での主な質疑の内容を紹介いたします。

《予算決算委員会 総務分科会》

議案第99号 令和8年度飯田市一般会計補正予算（第3号）案

Q ごみ袋は市が所有して販売しているものではなく、価格を製造者・販売者が自由に設定できるとのことだが、市として今回の値上げ相当額についての金額の妥当性をどのように判断したか。

A 製造業者から提出された原材料価格の上昇に関わる資料を確認するとともに、県内の他市町村におけるごみ袋の値上げ事例や同等規格製品との比較検討を行い、妥当性を判断した。

Q 補助対象期間は、令和9年1月末出荷分までの約6カ月分となっているが、2月以降は補助が終了して値上げされるのか、それともその時の状況により再判断をするのか。

A 駆け込み購入による店頭での品薄や混乱を防ぐため需要が安定する期間を設定した。今後は原材料価格や需給バランスを注視しつつ、分別徹底によるごみ減量の啓発も含め必要な対策を検討する。

議案第104号 令和7年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について のうち分担分

地域自治活動支援事業について

Q 自治活動組織における役員負担軽減に向けた組織体制や事業内容の見直しなどの改革改善の取組を支援したとあるが、具体的にどのような支援を行ったのか。

A 各地区の自治活動組織において役員の高齢化やなり手不足が課題となる中、まちづくり委員会連絡会議にて各地区の取組事例の意見交換の場を設定したほか、自治振興センター所長を中心に、組織の改編や事業の見直しを行う地区への助言・支援を行った。

20地区田舎へ還ろう戦略支援事業について

Q モデル地区での取組を含め、今後20地区にどのように展開していくか。

A 令和7年度は3地区、令和8年度は新たに3地区の合計6地区をモデル地区として選定している。まちづくり委員会連絡会議やブロックごとに課題検討をしていただいているため、現段階では必ずしも全ての地区をモデル地区に設定しなくても、モデル地区の手法や成果を共有する中で、それぞれの地区に応じた取組を進めていきたいと考えている。

総合的な空き家対策事業について

Q 空き家バンク登録件数、成約件数がなかなか増えてこない要因は何か。また、市民や閲覧者に対する周知方法を見直す考えはあるか。

A 状態の良好な物件は宅地建物取引業協会加入の業者へ案内し流通を促しており、

業者で扱わない物件等を市で扱っている。ホームページ等での説明方法を見直すとともに、空き家バンクの役割や実態が正しく伝わるように周知や手続の見直しを検討していく。

脱炭素先行地域づくり事業について

Q 当初予算4億2千万円余から、年度末に専決補正で約2億円減額し、さらに1億8千万円余を繰越にする背景と理由は何か。

A 年度内の工期確保が困難となり、翌年度に繰り越した。事業計画を変更し、令和9年度に実施する。

3R推進事業について

Q 雑紙分別啓発袋の配布による具体的な成果は。

A 配布前の半年間と、配布後の半年間を比較すると、雑紙の資源回収量が4.9%増加しており、分別啓発の効果を確認した。

請願1件を「採択」としました

《令和8年 請願第2号》

「地方財政の充実・強化を求める意見書を採択し、国へ意見書の提出を願いたい。」

（請願者）飯田市内 飯田市職員労働組合
執行委員長 丸山 悟史氏

【主な意見】行政需要に的確に答え、質の高い行政サービスを維持するためには、国が地方交付税等の一般財源総額を確保することが不可欠となる。また、地方医療を安定的に確保するため、物価高騰や人件費上昇により依然として厳しい状況が続く公立病院に対し、国による実効性のある支援が必要であるため、採択。

社会文教委員会

9月15・16日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

社会文教委員会へ付託となった議案1件について、慎重に審査を行った結果、原案のとおり可決することに決定しました。議案審査において質疑はありませんでした。

議案第89号 飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について

【内容】新たに設けられた特定在留カード等を個人番号カードとみなすことに対応するため、条例の一部を改正しようとするもの。

《予算決算委員会 社会文教分科会》

当分科会に分担となった議案は、予算案件3件、決算案件6件です。主な質疑の内容をご紹介します。

議案第99号 令和8年度飯田市一般会計補正予算(第3号)案

学校再編費について

Q 遠山小学校の校章・校歌に関する経費が補正となった理由は。

A 当初予算編成時点では詳細が不透明であった。今般明確となったため補正したい。

スポーツ事業費について

Q 部活動の地域展開における生徒の移動手段確保のため、各学園に車両一台を配備

し、地域の公民館で保管するというのだが、使用しない時間帯は別の用途で使用できるのか。

A 今回の仕組みは国の補助制度を活用するため地域クラブの使用以外は目的外使用となり認められていない。また、車両は学園間で調整しながら使用していく予定。

議案第101号 令和8年度飯田市病院事業会計補正予算(第1号)案

寄付金の使途について

Q 寄付金が目標を大きく上回った。家族ケアルームの新設も寄付で賄いたいと考えているか。

A 家族ケアルームも当初の使途としているが、まずはカンガルーチェア、ベビーベッド、入浴チェアなどの備品を購入したい。

議案第104号 令和7年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について のうち分担分

発達支援事業について

Q 発達相談対応件数が計画より非常に多い。5歳児相談がかなり大きく影響しているということか。また、この相談には引き続き力を入れていくのか。

A 5歳児相談の件数の増加は段階的に対象園を拡大して実施しているためと解釈している。今後も継続して力を入れていきたい。

知育力向上支援連携推進事業について

Q 教育委員会情報誌の発行回数が1回だった理由は何か。

A 多様な情報伝達媒体が発達する中で、今

後も紙媒体で良いか検討してきたためである。
文化会館等管理運営事業について

Q 文化会館の改修は令和8年から3力所で改修を進めるとの説明だった。7年度は計画5力所に対し実績は13力所である。改修が進んでいるという認識でよいのか。

A 7年度は計画以上に故障や不具合の箇所を改修せざるを得なかった。昨年度までは新しい文化会館ができるまで持たせたいと考えていたが、整備方針の変更により当面20年間故障なく使用するための改修を計画している。

議案第107号 令和7年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

Q 要介護認定者が減っていく状況で給付が伸びている要因をどう考えるか。

A 3年に一度の報酬改定で事業所が加算を取得したこと。また、新規認定を受けてからの要介護期間が長期化しており、介護サービスが必要とする重度の要介護者の利用においては特に介護老人保健施設の利用者が増加していること。これらが重なり給付費が増加したと分析している。

議案第113号 令和7年度飯田市病院事業決算認定について

Q 赤字決算の要因を探る視点からの質疑
病院の費用でウエイトを占めるのは人件費だが、人事院勧告が出されると条例改正が行われる。これは経営状態を見て給与改定されるものではないと解釈できるがその認識でよいのか。

A その認識でよい。

産業建設委員会

9月2・16・24日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

今定例会に産業建設委員会へ付託となった
議案4件について、いずれも原案のとおり可
決することに決定しました。

議案第93号 飯田市水道条例の一部を改正 する条例の制定について

【内容】今後24年間の水道事業の収支見通し
の試算結果から、安全でおいしい水道水を安
定して供給するために水道事業経営戦略の見
直しが必要となる。このため令和9年4月1
日から水道料金を平均18%値上げするための
条例の一部改正を行う。

【議案審査の概要】議案審査の前段、関連す
る陳情の願意説明及び質疑までを行い、その
上で審査に入りました。様々な視点から質疑
がなされ、次の5点について論点として整理
しました。

1点目「水道料金の平均改定水準の妥当性」、
2点目「水道事業への理解を深めるPR」、
3点目「激変緩和策の考え方」、4点目「広
域的な連携の内容」、5点目「国に対し支援
を求めること」。これらの論点を確認した上
で議案を採決し、原案のとおり可決しました。
その際に、附帯決議及び国等への意見書の提
出を求める動議があり、予備日の9月24日に
改めて委員会を開催し附帯決議及び国に対す
る意見書を可決しました。

可決した附帯決議及び国への
意見書の本会議における審議は、
2ページ下段の「議員及び委員
会提出議案」をご覧ください。
また、附帯決議書等の本文につ
いては、ホームページに掲載し
ていますのでこちらも併せてご
覧ください。



(国への意見書)



(附帯決議文)

令和8年 陳情第6号は「不採択」と なりました

（陳情内容）令和8年6月に示された水道料
金の値上げに関し、慎重に審議し、必要に応
じて計画の見直しを行うよう市当局に働きか
けることを求める。

（陳情者）飯田市内
飯田商工会議所 会頭 原 勉氏
同 支部連合会 会長 五十君 親彦氏

令和8年 陳情第7号は「不採択」と なりました

（陳情内容）令和9年4月から飯田市が水道
料金の値上げを実施しないこと及び長野県と
国に対し水道事業に関する大幅な補助金の要
望を行うことを求める。

（陳情者）飯田市内
飯田市の水道料金値上げに反対する会
代表 関 靖氏

《予算決算委員会 産業建設分科会》

当分科会に分担となった予算案件3件、決
算案件8件について審査しました。

議案第104号 令和7年度飯田市一般会計
歳入歳出決算認定について のうち分担分

農地等活用対策事業について

Q 地域計画のブラッシュアップとあるが、
具体的な地区と内容は。

A 国からの通知に基づき計画の策定がなさ
れている16地区へブラッシュアップをお願
いしている。昨年度は上郷地区において10年後
の農地の管理者について改めて検討している。

森林経営管理事業について

Q Jクレジット手続の進捗状況は。

A 上村しらびそ高原付近の市有林168
4.33haについて昨年度登録手続が完
了した。現在クレジット発行のためのモニタ
リング調査を実施しており、認証を受ける運
びとなっている。

議案第109号 令和7年度飯田市駐車場 事業特別会計歳入歳出決算認定について

Q 駐車場の利用実績は増加している一方、
収入は伸び悩んでいる。2時間無料は継
続するか。

A 利用台数の増加とともに、利用料収入も
増えている。2時間無料化の取組が中心
市街地の活性化に一定の効果があると分析し
ている。人件費や物価上昇など経営環境が厳
しい中で、7年度実施した調査を参考に引き
続き検討する。

予算決算 委員会

予算決算委員会、及び分科会における予算議案の審査の様子は、YouTubeで動画配信しています



予算決算委員会は、9月11日に前期全体会を開催し、付託のあった議案について分科会への分担を決定しました。その後、9月14日から17日にかけて各分科会を開催し、補正予算に係る予算議案7件、決算認定等に関する議案13件を審査しました。

9月28日に開催した後期全体会では、各分科会の審査について座長報告を受けるとともに議案審査等を行い、いずれも原案のとおり可決又は認定をすることに決定しました。

また、「議会による行政評価」の評価の共有及び提言書の確認を行いました（「議会による行政評価」の提言に係る詳細は中段をご覧ください）。

9月29日の閉会日には、9月8日及び9日の豪雨による災害箇所への復旧事業費として令和8年度一般会計補正予算（第4号）案を審査し、原案のとおり可決しました。

令和7年度飯田市各会計の決算を認定

令和7年度の決算において、一般会計、墓地事業特別会計、ケーブルテレビ放送事業特別会計の合計である普通会計は、歳入総額553億4,072万円、歳出総額544億2,454万円となり（会計間で移動した金額を控除した後の額）、令和8年度に繰り越す財源1億1,680万円を除いた実質収支は7億9,938万円の黒字となりました。

いいだ未来デザイン2028「後期計画」の評価及び検証からの提言書を市長に手渡しました

「議会による行政評価」は、飯田市自治基本条例に規定されている市議会の責務を果たし、市の執行機関の活動の監視と適正な行政運営の確保を目的に平成20年度から実施しています。

本年度は、いいだ未来デザイン2028後期計画4年間（令和7年度から10年度）のうち初年度にあたる令和7年度の実施状況について、7月21日に執行機関側から説明を受け、総務、社会文教、産業建設の各分科会及び必要に応じて連合会議において評価・意見集約し、その検討状況を予算決算委員会前期全体会（9月11日）において全委員で共有しました。

9月定例会では、各分科会の評価・意見集約を執行機関側に提示し、必要に応じて担当部課長との意見交換を行うとともに、予算決算委員会（9月28日）において最終的な取りまとめを行い、9月29日市長に提言しました。

令和9年度の予算編成に生かされ、さらなる市民サービスの向上につながることを期待します。



▲9月29日に竹村議長から佐藤市長に提言書を手渡しました。

提言書の詳細内容は、飯田市議会ホームページに掲載しています。
QRコードもしくは「飯田市議会行政評価」で検索



令和8年度前期 政務活動報告会 9月29日開催

市議会の各会派では、政策の立案、提言に生かし、市民益につなげていくことを目的に政務活動を実施しています。先進地視察などの調査研究その他の活動の内容は報告会で発表するとともに市議会のWEBサイトでも公開しています。令和8年4月から9月までに実施した各会派の調査研究の項目は以下のとおりです。

■ 新政いいだ

- 「VISION (ヴィゾン)」について（三重県多気町）
- 「市民共同発電所とあぐりステーション」について（滋賀県東近江市）
- 「NPO法人まちづくり役場（黒壁が牽引した長浜のまちづくり）」について（滋賀県長浜市）
- 「美濃和紙用具ミュージアムふくべ」について（岐阜県美濃市）

■ 公明党

- 「人工衛星データを栽培管理に活用したブランド米『くす天空の輝き』の生産の取組」について（大分県玖珠町）
- 「公共交通が届いていない地域でのグリーンスローモビリティの取組」について（大分県大分市）
- 「移住・定住促進施策の取組」について（大分県杵築市）

リニア推進 特別委員会

9月18日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

リニア中央新幹線風越山トンネル（黒田工区）進捗及び今後の見通しに関する説明会の報告について

「6月20日から26日までにかけてJR東海が、丸山・羽場・東野の各公民館で住民説明会を開催し、工事の進捗状況、今後の工程見通し、工事用車両の運行計画等を伝えた」との説明がありました。

リニア中央新幹線建設促進長野県協議会について

「8月24日に令和8年度総会が開催され、早期開業や工事の安全確保、環境配慮など8項目からなる決議が採択され、阿部知事からJR東海水野副社長へ決議内容を要請書として手交した」との説明がありました。

駅舎外観デザイン(案)について

「9月8日にJR東海から長野県及び飯田市へ、伊那谷の地形や景観をモチーフとした3つのデザイン案が提案された。

10月1日から12月28日まで南信州地域住民等を対象にアンケート調査を実施し、有識者によるデザイン調整会議の検討結果を踏まえ、県と市で総合的に判断して令和9年3月下旬に1つの推薦案をJR東海へ提出する予定である」との説明がありました。

Q アンケート結果で最も票が多かった案がそのまま推薦されるのか。また、各案への投票割合等は公表されるのか。

A アンケートの数値結果は公表し、尊重するが、有識者の専門的知見も踏まえて総合的に判断する。

Q アンケート対象者の範囲や年齢層はどのように考えているか。

A 飯田市及び下伊那地域に在住・通勤通学している幅広い年代層を対象と想定している。

リニア駅前広場交流施設(仮称)について

「南側のコミュニティ広場内に整備する交流施設について、令和10年度の駅前広場一部供用開始に合わせ、多目的スペース、防災機能、管理事務所等に加え、リニア事業により地域が分断の影響を受けた、上郷北条地区のコミュニティセンター機能を施設内に設置する。この施設は、伊那谷の風景やリニアも眺望できる斬新なデザインで、木造大屋根と合わせ、リニア駅のシンボルとなる施設であり、駅前広場の賑わい創出の核となる」との説明がありました。

Q JR東海と連携して施設内にリニア見学施設等の情報発信拠点としての機能を整えるべきではないか。

A リニアに関する情報発信機能を持たせられるようJR東海とも協議していく。

Q 多目的室等が利用されていない時間帯ににおいても、賑わいを創出できるように工夫

夫が必要ではないか。

A エントランスホール等は基本的に開放し、管理運営事業体とともに多様な主体に活用してもらえるよう検討を進めていく。

Q 北条地区のコミュニティセンター機能を交流施設内に併設する経緯や妥当性について。

A 平成28年に北条地区からの集会施設設置の要望があり協議を重ねてきた。駅前広場整備への同地区の協力や地域コミュニティ維持の観点から、交流施設の一部に併設する計画とした。

リニア関連道路整備令和8、9年度の県工事概要(予定)について

「長野県が整備を進める国道153号飯田北改良は、JR工事影響区間を除いて、令和9年度末までの暫定4車線化を目標に工事が進められる。上郷南条交差点と飯沼交差点の歩道橋については撤去される計画であり、夜間通行止めにより工事を行うことも考えられる。

市場桜町線は、JR工事影響区間を除いて、また、座光寺上郷道路は、国道153号からフルーツラインまでの間について、令和9年度末の供用開始を目標に工事を進める」との説明がありました。

Q 国道153号の歩道橋の夜間撤去工事にあたり、近隣住民への騒音等に対する配慮は。

A 周辺住民に極力迷惑がかからないよう事業主体である長野県へ申し入れていく。

代表質問 8 ページ

委員会代表質問

常任委員会、委員会で代表質問を行う者を選出し、議長の許可を得て委員会が所管する市の一般事務について質問することができます。

第3回定例会では、社会文教委員会が所管事務調査の対象に関する事項について質問しました。

一般質問 8～11 ページ

市政全般にわたり、市長をはじめとする執行機関側に、事業の執行状況、将来的な方針などを質し、説明を求めるものです。第3回定例会では、15人の議員が質問しました。

ズバリ！ 市政を問う

第3回定例会の代表質問と一般質問の概要を紹介します。

一般質問はこちらから

- ▶ 質問順に掲載
- ▶ 末尾の■は、他の質問項目
- ▶ 質問の様子は、Youtubeで動画配信しています



「こども・若者まん中社会」の実現に向けて 地域の未来を生きるこどもたちの居場所は



委員会代表質問 社会文教委員会

下平 恒男 議員

Q 核家族化や共働きなど生活環境の変化による「こどもの居場所」の重要性をどのように捉えているか。

A 「こどもの居場所」は、こどもが安心して過ごし、自分らしく居られる場所、自分がここに居てよいと思える場所である。核家族化、共働き家庭などを背景に、日常生活の中心をなす家庭と学校以外のこどもの居場所が益々重要になっている。居場所の重要性は、悩みや困りごとを一人で抱え込まずに孤立の防止と、自然体験や文化活動を通じ同世代と交流できる学びと体験の機会にあると考えている。

Q 地域にもこどもの居場所づくりに尽力している方が多数いる。地域との関わりをどう考えているか。

A こどもが地域の様々な人と関わり価値観に触れ、社会との関わり方を学び、地元を誇りや愛着を持つことにつながる。また、こどもが地域の活動に参加することは、自分の意見を伝えたり、役割を担ったりすることで、自己有用感を得ることができると考えている。大人にとってもこどもに気づかされることであり、関係する双方にとって非常に意義があることと捉えている。

難聴児の療育に対する 経済的支援の拡充は



森 本 紘 司 議員 (新政いいだ)

A 松本市など遠方への通院通学に伴う交通費の経済的負担は理解をしている。現在は最重度の障がい者を対象とした支援を行っているが、中度・軽度の障がい者には支援がない状況である。地域格差の解消に向け、難聴児だけでなく他の障がい児についても通院通学状況を詳細に確認しながら、交通費に対する経済的支援の拡充や住所地に左右されない制度のあり方を検討したい。

災害時における 受援計画整備の現状は



宮 脇 邦 彦 議員 (公明党)

A 熊本地震の被災自治体での応援要請や応援職員の配置、執務環境、宿泊先の確保などの課題を把握した上で、市の受援計画に同様の課題がないか点検を行う。災害を取り巻く状況や防災対策に関する知見が変化する中で、現在の計画が実情に適合しているかを確認し、必要な見直しを行いたい。受援計画は庁内で共有されているが、実行性が伴うよう見直し、全庁的に周知を図る。

Q 受援計画に基づく全庁的な訓練を行い、その結果を踏まえて計画を見直し点検する考えは。

人と動物が共生するまちづくりに 向けた環境について

小 平 彰 議員（新政いいだ）



A 不妊・去勢手術への助成や関係する団体の活動の推進を図り、一定の成果が出ている。モデル地区の設定は想定していないが、今後は、猫を好きな人も嫌いな人もいることを前提として、地域全体の理解と協力を得て進めることが重要であると認識している。気運の高まりに応じて、先進事例の情報を地域へ提供するなどして、人と動物が共生できるまちづくりを進めていきたい。

Q 野良猫に対する市の施策及び管理体制と地域猫モデル地区の設定を導入する考えは。

公立保育園の給食調理委託業務 の規制緩和について

古 川 仁 議員（日本共産党）



A 給食を単なる栄養補給の手段ではなく、幼少期の「食」を通じて学びの機会と考えているので、引き続き自園調理にこだわりを持って進めていく。この学びの中で、園児たちが地域の生産者との交流や地域の食文化と出会うことで、地域を知り、ふるさとに愛着を持つことで、将来地域を支えてくれる人材の礎になってくれるものと信じている。

Q 国は、令和9年4月から3歳未満児の給食についても外部委託を認めるが、市の考えは。

子どもを取り巻く課題を 社会全体で支える取組について

岡 村 弘 子 議員（公明党）



A 不登校等の相談窓口として教育支援センター等を設置していることを、小中学生の全家庭へ「相談のしおり」を配布し、また市のウェブサイトに広報でも周知を行っている。今後は新たな周知方法として、フリースクールや民間支援団体等の情報を掲載した「子どもの居場所紹介」を市のウェブサイトへ新たに掲載することを計画しており、現在作成中である。

■ラーケーションについて

Q 学校に行きづらい子どもの相談窓口や居場所に対する周知方法をどのように考えるか。

事業承継の取組について

長 谷 部 春 生 議員（会派きぼう）



A 市は、地域生活に欠かせない技術サービスの継承、地域に根差した雇用の確保、地域経済の持続的発展を事業承継の目的として取り組んでいる。事業承継では、地域の生活基盤であること、事業継続の意思、事業の収益性などの様々な視点と同様に、事業者の気運の醸成も重要であると認識している。他自治体での先行事例の調査・情報収集を進めていく考えである。

Q 事業承継の目的と事業者の事業承継への気運醸成に向けた取組は。

星空保護区認定に向けた 取組について

片 町 元 彦 議員（会派きぼう）



A 星空保護区の認定取得は、星空観察や天体観測をする来訪者が繰り返し訪れる動機となり、将来的に「天体観測の聖地」となることを期待している。先行する阿智村とも連携し広域的に星空の活用を図り、それぞれが持つ魅力を戦略的に発信することで経済波及効果を生み出せると確信している。世界に認められた美しい星空を地域の財産として次世代へ誇りをもって継承していきたい。

Q しらびそ高原星空保護区に期待することは。市のビジョンは。

地域資源を編集した飯田らしい 新たな価値化の考えは

岡 村 恒 和 議員（新政いいだ）



A 官民が参画する三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）などの既存の枠組を活用し、地域を超えた多様な素材の掛け合わせ（編集）で新しい価値を創造する取組はできると考えている。SENAには民間の企業が関係しており、具体的に事業を後押しし、広域的に取り組んでいくという気運の醸成ができると考えるため、SENAの活動に積極的に提案していく考えである。

Q 飯田と周辺地域の新たな価値を創出するための広域連携の考えは。

「未来を笑顔で語れるまち」を 平和行政の柱に

市 瀬 芳 明 議員（日本共産党）



A 戦争の悲惨さや歴史の教訓を次世代へ伝えることと、市民の生命や人権を守り誰もが未来に希望を持てる地域社会を築くことを市政の根底に据えてきた。「戦争の記憶を語り継ぐこと」と「若者が希望を持つて未来を語れる社会をつくること」とは、言葉は違っても根っこは同じと考える。過去から学び、若い世代とともに未来を笑顔で語れる持続可能な飯田市の実現に取り組む。

Q 戦争の記憶を次世代へ継承し、若者が希望を持ち未来を笑顔で語れる飯田市の平和行政をどう進めるか。

安全安心な学校給食の 提供について

福 澤 克 憲 議員（会派きぼう）



A 学校給食を安定的に提供するためには、調理場の環境整備が必要不可欠であり、施設や設備の老朽化に伴う大規模改修や移転も見据えていく。移転は様々な調整を行い、給食の更なる安定した提供を目指す。また、調理員が安全で健康に働ける職場環境の確保は、学校給食を提供するための重要な要素であるため、調理場の熱中症対策について速やかに必要な対応を行っていく。

Q 安全安心な給食、地元食材等を使った美味しい給食を継続して提供していくための環境整備の考え方は。

市民の健康について

松 岡 秀 治 議員（会派きぼう）



A 定期予防接種の種類が増加した理由は、国が感染症の発症予防、感染拡大、重症化防止等の観点から、予防接種の有効性や安全性等に関する科学的知見に基づき予防接種法を改正したためである。市は、国の制度改正に基づき定期接種の種類を段階的に追加し、市民へ接種機会を提供している。努力義務に強制や罰則はなく、市は法に基づき積極的な情報提供と勧奨を行っている。

Q 生まれて間もない赤ちゃんにまで予防接種のスケジュールが組まれているが、定期接種が増えた理由は何ですか。

ふるさと納税について

正 木 利 幸 議員（新政いいだ）



A 現在のふるさと納税は、特定の自治体を応援するという趣旨が薄れ、全体として行き過ぎていると思う。飯田市としては、制度本来の趣旨に立ち返り、決められたルールの中で節度を保って、飯田市のファンを拡大できるよう、プロジェクト型クラウドファンディングの寄附や20地区応援隊の推進等のふるさと納税を通じ、関係人口・応援人口の増加による地域振興に努めたい。

Q 飯田市のふるさと納税の今後の方向性をどのように考えるか。

新しく増えた産後ケア事業 について

水 月 レ イ 議員（会派きぼう）



A 産後ケア事業は、市が医療機関又は助産院と委託契約をしており、民間事業者で行われている。委託契約を結んだ医療機関や助産院の事業者に対し、利用者の利用料金の8割を公費で負担している。

■日本一の焼肉の街飯田市の取組について

Q 産後ケア事業の場が増えるにあたり、市の支援は得られるのか。支援体制をどのように考えているか。

飯田市の人口減少について

関 島 百 合 議員（会派きぼう）



A 予想を超える速度で人口減少が進んでいることが明らかになった以上、令和9年度以降の事業構築は、これまでの延長線上で漫然と継続することはできない。地域の持続性を高める事業の再構築が必要と考えるため、デジタル技術の活用や官民協働、公共施設の縮減に取り組み、単なる経費節減ではなく、暮らし豊かなまちと質を求める前向きな「適応」の視点で進めていきたい。

Q 人口減少への「適応」を、今後の市政運営と地域づくりにどのようにつなげるか。

定例会の本会議の議決結果や会議の様子は、
飯田市議会ホームページ、YouTube「飯田市
議会(中継)」でご覧いただけます。

飯田市議会ホームページアドレス
<https://www.city.iida.lg.jp/site/assembly/>



HP QRコード



開会日QRコード



閉会日QRコード

飯田市の人口減少について

野崎直仁 議員(無会派)



A 市は、市内の複数の拠点の個性と機能を連携させ限られた財源を戦略的に配分する「拠点集約連携型都市構造の推進」という考え方に基つき、都市の再構築を進めてきた。闇雲に都市構造を縮小することで、市民サービスの低下や地域コミュニティの崩壊などを招くことがないよう、住民の生活環境を効率的に維持するという視点で全体的な再構築を図っていきたい。

Q 急激な人口減少下では早急に都市構造をシュリンク(縮小)させることが必要と考えるがどうか。

所管事務調査としての管外視察を実施

総務委員会 (7月6日~7日)

総務委員会では、所管事務調査のテーマ「環境文化都市の実現に向けて」に関連し、市民、事業者、行政など多様な主体が協働して地域ぐるみで進められている先進的な取組を視察しました。

- 兵庫県神戸市 まわり続けるリサイクル事業について
エコノバあづま(資源回収ステーション)
- 京都府亀岡市 かめおかプラスチックごみゼロ宣言について
Circular Kameoka Lab (サーキュラーかめおかラボ)



▲エコノバあづま

▼Circular Kameoka Lab



社会文教委員会 (7月8日~10日)

社会文教委員会では、所管事務調査のテーマ「地域の未来を生きるこどもたちの居場所」に関連する先進地視察を今後の市政の方向性を探ることを目的に実施しました。

- 長野県長野市 ながのこども館 ながノビ! について(屋内遊び場)
- 長野県千曲市 部活動の地域展開について
- 新潟県村上市 部活動の地域展開について
総合型インクルーシブスポーツの実施について
屋内遊び場について(廃校を利用した遊び場、児童保育等)
- 富山県黒部市 すべての小学校区での放課後子ども教室の開設について



▲廃校利用(新潟県村上市)

産業建設委員会 (7月13日~15日)

都市宣言に掲げる「環境文化都市」の視点を持ちながら、市民の生活の基礎を支える農林水産業の持続可能な産業として、先進的な取組を視察しました。

- 熊本県荒尾市 上下水道事業における官民連携(ウォーターPPP)について
- 福岡県大木町 有機資源(バイオマスセンターの液肥)による資源循環型農業及び遊休農地対策について
- 福岡県筑前町 スマート農業の取組について
- 福岡県福岡市 農地活用推進プロジェクト(遊休農地対策)について



▶バイオマスセンター(福岡県大木町)

議員紹介

議員の人となりなどを議員自らが紹介します。(議席順に掲載)



～ 息子の棚に飾られた盾 ～

は せ べ は る き
長谷部 春生

6月に開催された飯田市消防技術大会。私は、ポンプ車操法の部に、指揮者として出場しました。今春小学校に入学した息子が見守る前で、指揮者として全力で声を出し、仲間とともに駆け抜けた時間は、父親の懸命な姿を見せることができたかけがえのない瞬間となりました。

思いがけず優秀指揮者賞という過分な賞をいただきました。持ち帰った副賞の盾は今、息子が大切にしているおもちゃや写真と並び、いつでも見える場所にそっと置かれています。

消防団の活動は、仕事や生活を守りながら、地域を思って汗を流す大人の姿そのものです。全力で取り組んだ時間が、息子の誇りとして心に刻まれたのなら、これ以上の喜びはありません。



～ わらしべ長者と博子経済圏 ～

さ さ き ひ ろ こ
佐々木 博子

実は私「わらしべ長者」を目指しています。議員になる前、好奇心の赴くまま全国各地のセミナーや講座へ数多く出かけました。そこで得た経験や知識が、議員になったいま役立っています。またその様な出会いは私の財産です。

そんな遠方の友人たちに南信州の美味しいものを送るのが私の楽しみ。すると、海沿いからは海の幸、都会からはキラキラしたお菓子、みんな各地の美味しいものをお返しで送ってくれます。中には南信州へ遊びに来る人も。好奇心からつながり、おいしいものが人を巡り、関係人口をつくる。人々はこれを「博子経済圏」と呼びます。

今のところ、通貨は「ご縁」です。

議会の動き(予定)

■ 令和8年第4回定例会 傍聴にお越しく下さい。
 開会日11月25日(水) 閉会日12月17日(木)

◇ 代表・一般質問
 12月2日(水)～4日(金)

◇ 委員会日程

予算決算委員会前期全体会	12月7日(月)
総務委員会	12月8日(火)
社会文教委員会	12月9日(水)
産業建設委員会	12月10日(木)
リニア推進特別委員会	12月11日(金)
予算決算委員会後期全体会	12月16日(水)

■ 議会への請願・陳情は、議会事務局へ
 11月9日(月) 午後5時までにご提出ください。

議会傍聴に際してのお願い

議場や委員会室に入る場合は、帽子、コート、マフラーの着用、傘の類の携帯はご遠慮ください。(病気その他の理由により会議への出席に必要と認められる物であって議長にあらかじめ届け出たものは例外となりますので議会事務局職員にお申し出ください。)

広報広聴委員会

委員長/関島 百合 副委員長/長谷部 春生
 委員/水月 レイ 森本 紘司 岡本 恒和 岡村 弘子
 野崎 直仁 松岡 秀治 市瀬 芳明

表紙紹介

タウンミーティング

タウンミーティングは、議会・議員との接点がない、声を届けにくい子育て世代や若者、女性など幅広い市民の皆さんとの懇談の機会となる新たな広聴の場としています。

今年度は、当地域で働く若い世代を対象に「なぜ飯田を選んだのか?」をテーマに、働く環境や職場、子育てや教育、そのほか日々の暮らしの中で感じていること、気付いたこと、こうなってほしいと思うことなどを総合的に聴き取る機会としてタウンミーティングを開催します。

対象は、当地域の出身者で進学等のため一度飯田市を離れた後、就職などを機に地元に戻ってきた若い方、ずっと当地域に住んでいる方です。地域の事業所にご協力をいただきながら進めていく予定です。

最初のタウンミーティングは8月上旬に若者と議員がグループに分かれ意見交換を行いました。

意見交換後、議員からは、「地元のことを学びきっかけになった。」「新たな飯田市の魅力に気づくことができ良い機会になった。」「日頃若者と話す機会は少ないが話すことができて良かった。」「飯田市に帰ってこない理由は帰って来ない人に聞くことも必要だと改めて感じた。」などの意見がありました。

今後も幅広い世代の市民の皆さんとの意見交換を行い、議会活動に役立てていきます。